



みつくら



《 北米産大豆 》

13/14年 世界及び米国大豆生産予測・需給予測

米国農務省が4月9日発表した、13/14年度の世界大豆生産高予測によれば、アメリカで収穫面積が減少するものの単収の増加により前年度と比較して増加、ブラジルで収穫面積の増加により史上最高、アルゼンチンで単収の上昇と、史上最高の作付面積により増加となることなどから、世界全体で前年度を上回り史上最高となる見込み。一方、消費量も中国、アルゼンチンなどで増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫は前年度より上昇する見込みとなっています。

13/14年産 世界大豆生産・需給予測

生産量	2億8,405万t	(対前年比 5.9%増)
消費量	2億6,900万t	(対前年比 4.0%増)
期末在庫量	6,942万t	(対前年比 20.0%増)
期末在庫率	25.8%	(対前年度差 3.4ポイント増)

13/14年産 米国大豆生産・需給予測

生産量	8,951万t	(対前年比 8.4%増)
消費量	4,843万t	(対前年比 0.0%増)
輸出货量	4,300万t	(対前年比 19.7%増)
期末在庫量	367万t	(対前年比 4.2%減)
期末在庫率	4.0%	(対前年度差 0.2ポイント減)



○14/15年米国大豆作付意向調査結果

米農務省は3月31日、14年産の作付意向調査を発表しました。それによれば、大豆の作付意向面積は前年6%増の8,149万3,000エーカーと過去最高水準に達しています。

同省では、ミズーリ州とオクラホマ州を除いたすべての州で前年並みか増加しており、中でもノースダコタ州は前年を22%も上回る増加を示しています。このほかミネソタ州やネブラスカ州などでも大きく拡大している。

一方、トウモロコシの作付面積は4%減の9,169万1,000エーカーと、ここ10年以降で最も低水準の見通しとなっており、収益がここ数年で最も低くなるとの予測に基づいた動きのようです。

△米国大豆の主要州作付意向面積

	14年産	前年比		14年産	前年比
イリノイ	9,500	101	ミズーリ	5,500	98
インディアナ	5,500	106	ネブラスカ	5,400	113
アイオワ	9,600	103	Nカロライナ	1,600	110
ミシガン	2,100	111	ノースダコタ	5,650	122
ミネソタ	7,400	110	サウスダコタ	4,800	104
オハイオ	4,700	106	ミシシッピ	2,150	107

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL: <http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



みつくら



《 国産大豆 》

○平成25年産国産大豆入札情報

3月に行われた国産大豆入札取引結果によれば、普通大豆の平均落札価格は**4,290円上昇**、全体の落札率は**96.3%**と先月から**4.6ポイント**上昇し、先月と比較してさらに大きな変動を見せる結果となりました。

本年3月までの上場数量と、昨年同時期の上場数量を比較すると、**約1万8000t**ほど下回り、落札価格は、昨年同時期と比較して、**約7,000円**程上回る状況となっています。

この暴騰を受け、農水省や全農では、正確な情報提供などを通して、国産大豆の供給と価格の安定化の取り組みを強化しており、「高い、数量がないという話ばかりが先行し、不安感が蔓延しているが、対応できるだけの数量はあり、供給不足に陥ることはない」と強調、需要者に対し冷静な対応を求めた。また、農水省は26年産以降の作付面積拡大と、生産性向上の支援などを進め、大豆の生産拡大の強化を図る考えを示しています。

入札月	上場数量	落札数量	落札率
11月	1,168 t	940 t	80.5%
12月	2,969 t	2,523 t	84.9%
1月	4,351 t	3,886 t	89.3%
2月	7,512 t	6,928 t	92.2%
3月	4,307 t	4,149 t	96.8%
合計	20,308 t	18,426 t	90.7%



《 トピックス 》

○中国における大豆情勢について

まず北米におけるNon-GM大豆の生産動向として、13年産米国产Non-GM大豆作付率は**7%**でここ数年横ばい、カナダは**17%**ですが毎年減少している状況です。2005年時点では米国で約**1,100万t**、カナダで**160万t**、合わせて約**1,200万t**のNon-GM大豆を生産していましたが、13年には米国で約**620万t**、カナダ約**89万t**の合わせて約**700万t**となり、約**500万t**ほど減少しており、需給バランスからプレミアム（作付奨励金）はどんどん上昇しています。

更に、中国における大豆生産量は2004年の**1,400万t**をピークに減少し、近年では**1,200万t**に減少しています。一方で中国の食品用大豆の消費量は少しずつ増加しており、**2、3年後には200～300万t**を輸入し始めるとの見方もあります。すでに搾油用大豆の輸入量は**6,900万t**に達しており、中国の売買動向は大変なインパクトがあり、日本にとっても大きな影響を受けることは間違いないと考えられます。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>